

■開催概要

- シリーズ名称：2019 鈴鹿クラブマンレースFinal Round 併催／2019 スーパーFJ&F4日本一決定戦
- 主催：京都レーシングハイブリッドクラブ (KRHC)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 協力：OCCK、チーム淀、AASC、ARC、ARCN
- 後援：国土交通省 (F4クラス)、本田技研工業株式会社 (N-ONE OWNER'S CUP)
- 競技：JAF公認準国内格式 公認番号2019-3004
- 会場：鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催レース：総参加台数／243台
 - RS・CS2／17台
 - クラブマンスポーツ／30台
 - FFチャレンジ／23台
 - フォーミュラEnjoy／30台
 - スーパーFJ日本一決定戦／47台
 - FIT 1.5 Challenge Cup／26台
 - F4 西日本シリーズ日本一決定戦／20台
 - N-ONE OWNER'S CUP／50台
- 開催日：2019年12月7日(土)・8日(日)
- 天候／路面：晴れ／ドライ(決勝日／12月8日)



2003年から雄姿を見せてきたFE1のマシンを使用してのフォーミュラEnjoyクラスのレースは今回が最後。チェッカーが振られた後、FE1のマシンで参戦した選手がパレードランを行った。

最終戦にふさわしい激しいバトルの連続の末、 全カテゴリーでシリーズチャンピオンが決定！

2月17日(日)に東コース大会が行われ、2019年シーズンが開幕した鈴鹿クラブマンレース。それを含めて6戦が開催され、今回の7戦目が今シーズンの最終戦となった。

今回はいよいよ全てのカテゴリーのシリーズチャンピオンが決まる一年の中でもっとも大切な1戦。12月7日(土)には各カテゴリーの公式予選、N-ONE OWNER'S CUPクラスの決勝レース、スーパーFJクラスの第1レグが行われ、翌12月8日(日)にはN-ONE OWNER'S CUPクラス以外の全クラスの決勝レースが行われる2DAYS大会として行われた。公式予選ではCS2クラスの松本吉章がコースレコードを更新。クラブマンスポーツクラスでは伊藤直登、眞田拓海、鍋家武の3名が、フォーミュラEnjoyクラスではFE2の大崎達也が、FIT 1.5 Challenge Cupクラスでは伊藤裕士とHIROBONの2台がそれぞれコースレコードを更新した。

8日(日)の午前中には3つの決勝レースとF4 西日本シリーズ日本一決定戦のセミファイナルが、午後には4クラスの決勝レースがそれぞれ行われた。最初の決勝レースであるRS/CS2の2クラス混走による決勝は路面温度が低い早朝からスタート。このレースでは2周目のメインストレートでCS2クラスのランキングリーダーからランキング3位までがクラッシュして赤旗が出される波乱の展開に。RSクラスの阿部博行が圧倒的な速さを披露して見事ポールトゥウィンを飾り、逆転でRSクラスのチャンピオンに輝いた。また、クラブマンスポーツクラスではディフェンディングチャンピオンの中里紀夫が3位でチェッカーを受け、2018年に続いてチャンピオンに輝いた。

また、今回はスーパーFJとF4の日本一決定戦も併催された。スーパーFJでは鈴鹿シリーズランキング2位の岩佐歩夢が、F4では太田格之進がそれぞれ日本一に輝いた。1968年に開催されたシルバークップ・シリーズに源流を持ち、鈴鹿サーキットでの4輪レースとして51年の歴史を持つ鈴鹿クラブマンレースを最後に2019年シーズンの4輪レースが全て無事に終了した。

来シーズンはフォーミュラEnjoyが「鈴鹿・岡山統一シリーズ」として鈴鹿サーキット5戦、岡山国際サーキット2戦の全7戦で開催され、最終戦の鈴鹿ラウンドでは1.3倍のポイントが与えられることが決まっている。また、フォーミュラEnjoyはFE2マシンのワンメイクレースになる。さらにクラブマンレース史上最大、年間6大会がフルコースで開催されることも決まっている。例年以上に盛り上がりを見せそうな来シーズンの鈴鹿クラブマンレースには是非期待していただきたい。



■フォーミュラEnjoy Class

FE1とFE2の混走でレースが争われてきたこのカテゴリーも2019年シーズンの最終戦を迎えた。FE2では公式予選でコースレコードを更新した大崎達也が優勝。また、FE1では富永明、木村翔、安橋徹がバトルを披露したが、6周目のシケインで木村を含めた複数台がクラッシュ。富永がトップチェッカーを受けた。なお、FE1のマシンは今回のレースで勇退することとなった。来シーズンのフォーミュラEnjoyクラスはFE2のワンメイクでレースが行われる。

【FE1】

富永明、木村翔、小俣弘之のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。木村が富永をパスするが、その後もその2台は抜きつ抜かれつのバトルを展開。5周目のS字コーナーでは横並びの状態で行き、同じ周のデグナーカーブでも富永が木村の横に並ぶアグレッシブな走りを披露する。そこに安橋徹も加わったが、ラストレースを制したのは富永だった。

【FE2】

ポールポジションスタートの大崎達也が良いクラッチミートを披露。2番グリッドスタートの阪直純、3番グリッドスタートの山根一人が横並びの状態ですぐに続く。2周目になると大崎が単独トップに。山根、辰巳秀一、阪らがテールtoノーズの状態ですぐに2位の座を争う。クラッシュしたマシンがあったことにより、セーフティカーが介入。大崎の優勝が決まった。



FE1とFE2の混走によるフォーミュラEnjoyのレースが行われるのは今回が最後。ラストレースにふさわしい激しいバトルが展開された。

■フォーミュラEnjoy Class



■フォーミュラEnjoy Class (FE1) 仮表彰式 (優勝: 富永明、2位: 安橋徹、3位: ryuu mao)



■フォーミュラEnjoy Class (FE2) 仮表彰式 (優勝: 大崎達也、2位: 阪直純、3位: 辰巳秀一)

■FFチャレンジClass

ポールポジションからスタートした林陽介が良いクラッチミートを披露してホールショットを奪うと、それに鶴口裕太、大森和也とグリッドのオーダー通りに続く。林と鶴口がオープングラップからテールtoノーズのバトルを展開するが、その2台がシケインで接触。4番グリッドスタートの林大輔、6番グリッドスタートの坂和晃、大森のオーダーでオープングラップを帰ってくる。すでにチャンピオンを決めながら最後尾スタートとなった武田泰一は2周目終了時点で6位まで順位を回復。武田はファステストラップをマークしながらさらなる上位を狙う。結局、林、武田、坂のオーダーでチェッカーを受けた。



EG6、EK9といった歴代のシビックによって争われるFFチャレンジClassはクラブマンならではの 카테고리



■FFチャレンジClass仮表彰式(優勝:林大輔、2位:武田泰一、3位:坂和晃)

■クラブマンスポーツClass

ポールポジションスタートの伊藤直登がホールショットをゲット。2番グリッドスタートの眞田拓海が出遅れる。伊藤の背後に続くのは4番グリッドスタートの山谷直樹。伊藤、山谷、眞田、3番グリッドからスタートした鍋家武のオーダーでオープニングラップを終える。山谷と眞田がテールtoノーズのバトルを展開する間にトップ伊藤が単独状態に。山谷と眞田の後方では鍋家とEstefano Riveraもサイドbyサイドのバトルを展開する。山谷をパスした眞田が3周目のスプーンカーブで伊藤をもパス。後続を引き離れた眞田がトップチェッカーを受けた。3位でチェッカーを受けた中里紀夫がシリーズチャンピオンに輝いた。



マシンの表面積が大きいので、思い思いのカラーリングに仕上げて自己アピールしやすいのもクラブマンスポーツの魅力



■クラブマンスポーツClass仮表彰式 (優勝：眞田拓海、2位：山谷直樹、3位：中里紀夫)

■FIT 1.5 Challenge Cup Class

ポールポジションからスタートした伊藤裕士がコースのイン側にマシンを振る。その背後につけたHIROBONはアウト側に振るが、伊藤、HIROBONのオーダーで1コーナーへと突入。その順位のままオープニングラップを終える。2周目にクラッシュしたマシンがコース上に留まったことにより赤旗が出される。リスタート後も伊藤がHIROBON以降を引き連れて走行を続けるが、4周目のシケインで西田拓矢が伊藤に接触。これにより、HIROBONがトップに浮上する。それに続くのは寺西玲央。その後もHIROBONと寺西はテールtoノーズのバトルを展開するが、HIROBONがトップチェッカー。HIROBONが逆転でチャンピオンを決めた。



ランキングリーダーの伊藤裕士とランキング3位のHIROBONが公式予選でコースレコードを更新。伊藤がポールポジションからスタートすることとなった



■FIT 1.5 Challenge Cup Class 仮表彰式 (優勝: HIROBON、2位: 寺西玲央、3位: 太田侑弥)

■RS・CS2 Class

2番グリッドからスタートした板津一平が良いクラッチミートを披露するが、ホールショットを奪ったのはポールポジションスタートの阿部博行。その阿部、板津、大城一と、グリッドのオーダー通りにオープニングラップを帰ってくる。2周目のメインストレートでCS2クラスランキングリーダーの大文字賢浩、同2位の松本吉章、同3位の川島勝彦が絡んでクラッシュ。赤旗が出された時点で大文字の3度目のCS2クラスチャンピオンが決まる。リスタート後は阿部がファステストラップを更新しながら板津以降を引き離すことに成功。3連勝を飾った阿部が逆転でRSクラスのシリーズチャンピオンに輝くこととなった。



■RS Class仮表彰式 (優勝: 阿部博行、2位: 板津一平)



■CS2 Class仮表彰式 (優勝: 金久憲司、2位: Benson Lin、3位: 水本吉則)

■F4 Class日本一決定戦

ホールショットを奪ったのはポールポジションスタートの太田格之進。それに2番グリッドスタートの大草りき、4番グリッドスタートの佐藤蓮、5番グリッドスタートの三宅淳詞と続く。そのオーダーのままオープニングラップを終了。2周目になると太田、大草、佐藤が後続を引き離してトップグループに。単独トップとなった太田の後方で大草と佐藤がテールtoノーズのバトルを展開する。3周目のシケインで佐藤が大草をパス。その2台は4周目の1コーナーから2コーナーあたりまで横並びの状態で行く。大草を引き離した佐藤が太田を追いかけると、パスするには至らず、太田がトップチェッカーを受けた。



夕暮れ迫る時間帯に行われたF4 Classの日本一決定戦が2019年シーズンの鈴鹿クラブマンを締めくくるレースとなった



■F4Class日本一決定戦仮表彰式(総合)(優勝:太田格之進、2位:佐藤蓮、3位:大草りき)

■F4 Class日本一決定戦



■F4Class日本一決定戦仮表彰式(カテゴリー別/Hクラス) (優勝:入榮秀謙、2位:今田信宏)

■スーパーFJ Class日本一決定戦

ポールポジションスタートの伊東黎明と2番グリッドスタートの岩佐歩夢が横並びの状態でも1コーナーへ。しかしホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの岡本大地。それに岩佐、4番グリッドスタートの元嶋成弥、伊東、7番グリッドスタートの澤龍之介と続く。オープニングラップの西ストレートでクラッシュしたマシンがあったことにより、赤旗が出される。セーフティカーラン中に岡本がストップ。リスタート後は岩佐が一時的に独走状態になるが、澤が岩佐に追いつく。ファイナルラップのスプーンカーブで澤に抜かれた岩佐がシケインで再びトップに。岩佐、澤、入山のオーダーでチェッカーを受けた。



スーパーFJクラスは12月7日(土)に第1レグが行われ、ファイナルは翌8日(日)に行われた



■スーパーFJ Class日本一決定戦仮表彰式(優勝:岩佐歩夢、2位:澤龍之介、3位:入山翔)

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った
ドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

RS/CS2 Classの混走レースで総合優勝して
RS Classシリーズチャンピオンを獲得！

阿部 博行 選手 (62歳/T.D.S.racingF SK5.2)



Q: 公式予選でトップタイムをマーク。ポールポジションからスタートすることになりました。

「最後の走行から2週間ぶりでした。僕はスロースターターなのです。赤旗が振られて中断になるまではビリでした。そこでスイッチが入ったのだと思います。結果的にはトップタイムをマークできました」

Q: 決勝レースでも赤旗が出されましたね。

「最初のレースは板津一平選手に後ろに付かれ、けっこう厳しかったです。独走になれば楽になれると考えていたのですが、リスタートしてからは後続を引き離すことに集中しました。そうやって勝てました」

Q: 3連勝を飾ってシリーズチャンピオンに輝きました。

「来シーズンも同じ体制で走ることになると思います。RSは近い将来なくなると言われていますが、参戦車両が手に届きやすい価格で販売されていますし、バトルも楽しいカテゴリーです。皆さんももっともっとRSクラスを楽しんで欲しいと思います」